W.ASON
HQ
.J4
J74+
Mai. 1894
no. 373

明治十八年初刊

女學雜誌

每週土曜日發兌

第三百七十三號

要目

○社說　春の福音のことば
○徒然草　閨愁恨
○史傳　赤十字社とクララバートン
○開書　主婦となりし女學生の述懷
○論說　小兒學と云ふ新學科

明治二十七年三月卅一日發兌

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

第三百七十三號目錄

社說

春の福音のことば

つれ〴〵草

閒窓眼へ（もみぢ）

無事太平の家のなげき（其一）

史傳

赤十字社とクララバートン（上）

中々のやさ形にて

ヲックスフォード大學

小農場を自ら監督し

自から兒を救はんとして

女史が病にかゝり又其前途の用にとて

夏の草生茂り路方を沒する前に

一夜一百哩の約束にて

普佛戰爭起り

女史が蒙けたるもの數々なり

合衆國大統領ガーフヒールド

クララバートンを讚頌

家政

家の間接様の所謂

閒書

女學生より主婦となりたる人の述懐（後の女）

寄書

見聞錄（白井川生）

[illegible]

兒籃

鳥のはなし（しづ子）

統計

貧生の病症

軍人間の恐ろしき病

論說

小兒の研究　學問界の一新學科

書架

賜暇居士の夫婦論○日本女學（印度物語）○女子教育勅語例解　小說百家撰（浮世見物）

片々

小兒の死亡及び原因

名婦の紹介

町村小學の女子教育

關西女子教育會討議題

時報

女子高等師範學校卒業式○女兒就學に關する新潟縣の諭達○山梨縣尋常師範學校の幼稚園○二十七年度に於ける東京府の教育費○第五回關西女子教育會○勢州の少女○感心なる少女○親子の洋行○産婆開業試驗○共立女子職業學校の園遊會○植伺宮の流配

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

明治二十七年三月卅一日發兌

女學雜誌

第三百七十三號

社説

春の福音のことば

世は積雪層氷を忘れて久しく、荒山野水の濱りに床しき香ひを聞く。朝たには、千片、風に背きて遠く人に隨がひ、宵には、一枝、月を帶びて低れて影を弄ぶ。遙かに望む山の霞は、白雲の花の如く、近き野面の草の色は、烟の染め成すかと疑がはる。雨斷つも雲歸るも、兩ながら晴となり、風吹くも塵飛ぶも、とみに馥郁たる芳香を薫ず。鶯は、枝に宿して清く、鷗は水に浮びて安し。緑葉の時ならずして落るは、試みに躍らんが爲め、遠寺の暮色を招くは、休みを早くせんとてなり。天に雲の彩どりあるが如く、地に紅白のそめもようあり。碧き草一面のしとねを延べて、間だに銀白の小川をすじ引く。大海の波は平らかにして、白帆こゝちよく遊び、磯邊の小草靜かに洗われて裝ほひを更たむ。山も興に乘つて動かんとすらん、水も歩みをとゞめて顧りみてながめたくや思ふ。散る花は惜しけれども、新たに風情あり、行く鳥はさびしけれども、空の景色を增す。和氣は、地の底にまで達きけん、地上こと〳〵く、穩やかなり、平和は一天に滿ち溢れけん、望むかぎり總べて好し。あゝ於戯、天地、如何なる更生を遂げ、如何なる洗禮をうけたりけん。東、西、南、北、みな歡こび、上、下、四方、共に歌ふ。天地一新せり、之を春と云ふ。春や、それ如何なる君子ぞ。温厚にして量ひろく、万物を容れて、其の自然の生成にまかす。春や、それ如何なる佳人ぞ。窈窕として姿うるはしく、纖々として趣むき濃やかに、匂ひこぼれて觸るる限り皆なゆかし。冬の嚴めしうして冷やかなるを恨みし人、何んぞ隣りに春あるを念はざる。秋の哀れに泣き其の情けうすきにかこちし輩らは、何んぞ春光の澤々たるに浴せざる。春は、夫天使か。飄搖として翼を張つて舞

ひ下り、翩翻として森羅万象の上を飛べば、其姿、生命を與へ、其影、福音を現す。死せる種子の活きて伸びるが如く、むくつけき樹枝の色めいて花を發らくが如く、はらばへる醜くき虫の衣を脱して蝴蝶となるが如く、何ものか、夫れ靈變せざらん。

天地に春の來るは、神の深き慈愛の顯現するなり。春なくして長閑からずば、人何如にして、漠々たる天地に其備けあるを知らん。春の生成を見ずんば、人如何にして、造物進化の惠みを懐はん。人類もし悵恨歎じがたくば、花は咲ひて慰さめんとす。人類もし墮落極まるなくば、月おぼろげに媚をしめす。霞の山を包むは、相抱けよとなり。草の軟らかきは同もに侍べれとなり。天地の美裝は、博ろく蔽はして隠さず、人も亦た物べてに宜しかれと教ゆ。春は、それ情交の牧師にあらずや。

元より冬の嚴めしきもなかる可らずと、左れど、冬のみにして春なくば、何如にして情けを味わはん。もとより夏の果もなかる可らず、左れど、夏のみにして春なくば、如何にして、實利の外の美をさとらん。もさより秋の悲しみもなかる可らず、左れど秋のみにして春なくば、何如にして洋々悠々の樂しみに付はん。天地、必らず春なかる可らず。春や、何歳なかる可らず。何歳、必らず、春の祝福を享けざる可らず。春なきの天地は、無情の天地なり。春なきの年は、無味の年なり。此故に、家も、人も、亦必らず春なかる可らざるを知るなり。

和樂せる家は、それ家の春か。温厚篤實の人は、それ人の春か。ホームは、それ春の家か。美人は、それ春の人か。あゝ、春を想ふ。あゝ、春を慕ふ。

然りと雖ども、春は必らず冬に續ひで來る。嘗て冬の嚴寒酷烈に付はずんば、安くんぞ春の温容和々たるを味はん。現に能く、春を樂しむものは、嘗て冬を過ごしたればなり。此故に、如今何は冬に接するの人は、其來ん春を望みて、敢て望を失なふとある可らず。天地、何處にも春あらば、人何すれぞ求めて之を得ざらんや。請ふ忍んで其來るを待て。既に到らば、其の清光を享けよ。

———

霞みぞり野べの霞は包めども
こぼれて匂ふ花さくら哉

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

つれ〴〵草

閨愁恨

其一

無事大平の家のなげき　もみぢ

何處の情け知らずやらん、女の獨立など論つらふ。男の獨り居る宜しからずとて女造られたらば、女の獨り居るは、一入惡しかりなん。もと其の本意にはあらず。古へより俠女鮮なしとせず、常ならぬ奇言を吐きて數ば世人を驚ろかし、天下に獨歩して貞從の道を物のかずともせざる躰爲なれど、こは別に激する所のあればなり。決して自からの本色とは見るべからず。惣じて女の滿足は、崇むべき丈夫に身を任せて、大磐石の傍らに侍べり、心を盡して、之に仕へまつるにあり。何の本懐か、眉を聳やかし、舌を動かして、無味なる獨立を望むと候わん。

妾わ常に古への貞婦の傳を愛讀し、かくして仕ふまつる可き丈夫居まし、天幸わひにして之に緣みを結ばせ玉わんには、妾は、心をつくし、意をつくし、精神をつくし、之を妾が生命として仕へまつらん、妾が光として仰ぎまつらん、全身を獻げて其仰せ詞に從がひまつらん、御命を聞きて働らくとの如何に快ちよからん、御影に傍ひて住まふとの如何に廣々なるらん、願はくは、斯くして身を粉にしたしなど思ひつゞけ、梅の花の匂ふを見、櫻の花のうらゝかなるを見などして、心温たかく望みを懷いて年立つうち、緣ありて今の君にとつぎ參らせぬ。吾君は、情け濃やかなる御方にて、妾が心の屆かぬふし迄で、何かと心付け玉ひ、折々の病の床には、万事を忘れて、勞はり玉ふ。御心のやさしき事、勿躰なし。何故ぞ、妾が元氣活々せず、不思議にも心にぶりて、御身のまわりの事にすら手落ち多かるを、一言の不平もこぼし玉はで、獨り默々として辨じ玉ふ。之を見奉まつる妾は、何ゆえ今一層の改悔はせざるやらん。御文、こま〳〵として、のこる方なく、家にて打わけ玉はぬ御情けを、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

特さら文して申させ玉ふ。紙に臨んで、涙落ち恐れ多しと思ふ心の起りながら、など今一段の感謝は出でざるやらん。何不足なき御生計の裏にゆるし置かれ、尋常ならぬ御位置のはしに並び立たしめられ、そも〳〵何物をか足らずとし、はた、何ものをか憾みとせん、然るに、氣分ちかくに勝れず、鬱結の後ちじれつたく、我ながら驚ろく計りの横着心忽然として湧くとのあるは、抑そも何たるとぞ。妾は心、堕落やせし。かゝる我儘は付て無りしものを。ふと心づきては、氣を立直し、毅然として、幼なきよりの家の教を思ひめぐらし、幾度か自から諫めて、自から引立てんとするに、何故ぞ、心の頭うなだるると多く、精神ねむけを催ふすばかりなり。仕方なければ、小説もや讀まんとて、一つ二つ見れば、人情義氣のたゝかひに心躍り、英雄男子の心胸を察して、雲はれ日輪かゝやくのおもひを爲す。之よりして、わざと小説に耽り、無き英雄を慕ひ、つくり物語の偉丈夫に交わりて只其間にのみ心を遣る。日くるゝ比、鳥さびしく飛び、わかしらすぐらきに、はたと思ひ出して物がなしき折から、吾君の御歸りを迎へ參らす。左して打あけ玉はねば、別けて御問ひ申さず。多くは無言のまゝ侍べりて、食事の御給事を爲す。夜ごとに長く、曉、尤とも遲し。雀の鳴き躍るとき、逸早く起きて、又々一日を迎ふ。一日、一日を送りて、年の華逝々にしぼむ。妾は盡し斯くして老ひ斯くして死ぬべきものにこそ候め。

安得二小園宜ヲ中誠、
讀者以予一時移。

史傳

赤十字社とクララ、バートン（上）

亞米利加合衆國に於ける過る二十五年間、シカゴの大火より、ジョンストンの大洪水に至るまで、幾多の慈善協會ありて、世の不幸を救濟せしと最と多かる中に、尤とも人目を引きしは、赤十字社の看護の事業なるべし。而して、此國の赤十字

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

社は、一女子、クララ、バートン嬢の發起にて成り、又、其盡力にて、今の勢大を得たり。

クララ、バートン女史、今や老嬢たり。今玆、年歯、六十四歳。戰鬪天炎の央ばに、看護の光を射入し、慈善の爲めに身を獻げし以來三十年、万骨を生かせし此の女英雄が姿、何如にと見れば、

中丈のやさ形にて

眼ざし温やかに鳶色にて、髪は鼠色に、口大きく決心の趣きを示せり。双の手は、小さく軟らかにして且つ花車なるが、此手、何如に多くの難める人を勞はりつらん。抑そも、此の女英雄は、マサチウセッツ州内、今の

ヲックスフォード大學

に近きほとり、新 英 村と申す小さき村にて、農夫を親とし、一千八百三十年(六十四年前)に生れ、幼きころは、村の小學校にて敎育をうけ、後はある機屋の工女となりしが、其後、勤儉、自から錢を貯蓄し、クリントン自由學院にて、一年間、勉學の料を得たり。此處より、ニウ、ゼルセーのボルブンタウンに到り、或る無月謝學校の敎師となり、遂に、ワシントンなる特許局の一官吏となりぬ。其後、久しからずして、父なる人の失せ玉ひしかば、

小農塲を自から監督し

一家を支へたり。其比ろ、兄弟の一人、ゼームス河にてアレピン油製造所を管理せしが、時恰かも南北戰爭將に火蓋を切らんとする機會に際せしに、北軍此邊りに到來せしとき、此の製造所などをも燒かんとするをば探察し、ゼネラル、バツトラーが到着の時、此方より之に火を放たんとを、南軍の大將に牒じ合せ、首尾よく其謀を成せしが、直ちに生捕られて北軍の中に紲られたり。此時、女史は、直ちに身を挺し、

自から兄を救はんとて

ゼネラル、バツトラーの陣に趣らんとせしが、特許局内の一助役、女史に代りて救難に趣むくとなりぬ。其後、ブル、ランの戰の前、女史は、ヲルセスターの新聞紙に廣告して、世上に救助費を募り、戰ひに傷つきたる兵卒は救護せんとの主旨を披露したり。然るに、之に應じて助力するもの、殊の外多く、遂に一大看護室を設けて滿員の看護を爲し、且つ兄の捕はれたる前軍にも出入するとを許れて介抱せしが、兄は

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

其秋遂に死にたりける。左れど、女史は、依然として益々、戰卒の傷を看し病を護り、多くの善き事を成して、戰爭の終る時まで、かつて中止せざりき。此時、元來、女史の働らきは、純然たる私しの篤志の事業にて、何如なる組織の委員となりしにもあらざりしかば、戰止み、ワシントンに歸りしのち、ヘンレー、ウイルソン氏を介して、國會に申出したるは、もし妾一個の報公を賞し玉はんとならば、金一万五千弗を恩賜ありたし、之を用ひて、戰に死して名沒し、行方今に知れざる打死者の行跡を探索し、其遺族に通信報告するの入費となさんと申せしに、此の請願の決案は、大多數にて通過し、

女史が勞に酬ひ又其前途の用にとて

一万五千弗下賜せられたり。時に、アンダーソンビルにて捕はれたるコンネクチカット生れの一少年、ドーランス、アトワーターと申すものありて、合戰の間ひだあひだに、心を留めて戰死者埋葬の場所を標し、且つ葬られたる人々の姓名を書き付け置しが、此時、陸軍省に届出づるようは、私事、凡そ一万五千人の戰死者の埋葬所を承知いたし、一々、目じるしをつけ置き候、

夏の草生ひ茂り跡方を沒する前に

早く御調査ありたしと申出しが、陸軍省は都合やありけん、之に一の官職を與へし耳にて、直ちに其注意を用ひざりしが、玆にクララ、バートンの計畫成りしかば、女史を助けて所々に奔走し、一々標札をうつて、埋葬せられし打死手の名を表てに掲げたり。あゝ、斯くして無名の戰功者、白日青天の下に日照ほしを示したり。此の情けある温たかき善行を成就してのち、女史は、南北戰爭に實況の演説者となり、

一夜一百弗の約束にて

三百夜演説すべき契約を結び、かくて二冬を過しぬ。特許局の書記の仕事より離れて正に七年、活潑々と、血温々の事業に從事せしが、遂に自から病となり、一千八百六十九年、即ち四十に余れる比ほひ、全く仕事を止めて保養せざる可らざる体にて、大陸に向つて出帆せり。然るに、其翌年、

普佛戰爭起り

宛から女史が大陸に來るを待つて開戰せしが如くなり。左れば、女史は、例の如く、看護に一と方ならず盡力し、就中、ストラスベルグにて精心を傾盡せり。又、パリスにて、共産

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

黨の倒れしのちは、被害者を助けんとて、趣むき救へり。昔魯士亞政府は、取わけ、女史が盡力を謝し、スウイッツルランド、及び日耳曼の赤十字社事業に關し樣々に告ぐる所ろあり。日耳曼の赤十字社は皇后ヲウガスタ陛下の御看護の下にあるをもて、特に女史は天恩の下に直接に優遇せられたりき。

女史が享けたるもの數々なり、

今は心友となりたる、バーデンの大公爵夫人よりは、バーツーの形したる紫石英の彫刻。女王ナタリエよりは、亞米利加赤十字の寶玉、同じくセルビアの赤十字の飾り。バーデンの大公爵並に大公爵夫人よりは、黄金の紀念赤十字。伊太利の女王よりは、赤十字の勳章。女王ビクトリア陛下よりは、御手づから針にて留め玉ひたる大英國の飾など、皆な女史が天眞の內美を發揚したり。然るに、此等を佩びて本國の同胞を悅ばせんとて歸りしより間もなく、重き病にかゝり、又た病の合間に經營したる米國赤十字社設立の爲めの會合も、思の外に捗取らざりしが、一千八百八十一年に至つて、遂にワシントンに於て之を組織し、國會も亦た之に必要なる法案を可決したり。之に助力したる第一の人は、スウイッツルランド赤十字社の發企人たり會頭たるガスタープ、モイエール氏なり。氏は、時の

合衆國大統領ガーフヒールド

に向けて熱實の勸告を爲せしが、大統領刺殺せらるる少し前に、書記ブレー氏より、之に對して温たかき返簡を寄せ、則はち其の基礎は固められし也。斯して、千八百八十一年の(十三年前)五月二十一日ワシントン府に於て組織せられ、稱して米國赤十字社と云ふ。憲法の第一條には、事務局をワシントンに置くのことあり、又他の條には、發起人とは此后撰ばれしものを以て社員とし、之をもて中央本局を造り、此局に他の州及び領地に造るべき支部の認定を與ふるの權を附したり。而して翌六月に開きたる第二會に於て、

クララ、バートンを會頭に

推撰したりける。

咲は散る咲ねばこひし山さくら、
おもひたへせぬ花のうへ哉。

家政

家の園播種の時節

穀菽、葉菜、蔬菜、及香辛類

玉蜀黍	自三月下旬至五月上旬	
豌豆	四月中	
黎豆	三月中	
鵲豆	自三月中旬至五月下旬	夏生菜豆に似たり嫩莢を食すれば一種の風味あり
清國紫鵲豆	四月下旬	
落花生	自四月中旬至五月上旬	
白八房菜豆	自三月下旬至五月中旬	
茶八房菜豆	仝	
茶蔓なし菜豆	自三月中旬至五月下旬	
白蔓なし菜豆	仝	
糯蜀黍	自三月下旬至五月上旬	
白胡麻	自三月中旬至五月上旬	
黒胡麻	自三月上旬至五月上旬	
鶯菜		効用は小松菜に異ならず
火焔菜	四月中	
紫甘藍	自三月上旬至四月上旬	
あめりか坊風	四月中	
馬鈴薯	仝	
菊芋	四月中	
芋類	仝	
早生節成胡瓜	自二月中旬至三月下旬	普通品に比すれば小なれども結果極めて多し
大胡瓜	自二月中旬至三月下旬	
八人枕胡瓜	仝	
清國大胡瓜	仝	
鳴子甜瓜	自四月下旬至五月中旬	
冬瓜	自三月上旬下旬まで	
琉球大冬瓜	仝	
錦冬瓜	仝	
國内大西瓜	自四月下旬至五月上旬	
西瓜	仝	
内外蕃蜀黍	四月中	
大麻	三月下旬より	
亞麻	四月上旬	
蕃杏	三月より四月	
[illegible]	三月より四月	
甘[illegible]	春三月中 秋九月中	
木立花椰菜	自三月下旬至四月上旬	
大葉萵苣	春三月中 秋九月中	
縮緬萵苣	仝	
立萵苣	仝	
菠薐草	仝	
[illegible]	仝	
[illegible]	仝	
石刁柏	四月中	
寒[illegible]當歸	三月下旬	
洋種[illegible]	春四月[illegible] 秋九月[illegible]	
塘蒿	三月中旬 四月中旬	
洋種菠薐草	春三月中 秋九月中	
[illegible]南瓜	三月中旬 四月中旬	
西京南瓜	仝	前種に劣るも品質惡しからず
鹿兒島南瓜	仝	可なり
洋種南瓜	仝	味甘美調百の味有、上品もよし
苦瓜	三月中旬より四月上旬まで	
大長苦太	仝	
太絲瓜	仝	
大長絲瓜	仝	
十稜絲瓜	仝	
早生千成茄	二月下旬より三月中旬まで	
中手茄	仝	
晩生茄	三月下旬	
巾着茄	仝	
奈良漬茄	三月上旬より	
佐土原茄	三月下旬より	
[illegible]大圓茄	三月下旬より四月中旬まで	
[illegible]永茄	仝	
洋種大茄	仝	
蕃椒	三月下旬より四月下旬まで	
地膚	三月下旬より	
紫蘇	三月下旬より	
龜戸大根	三月上旬より四月中旬まで	
夏大根	三月中旬より、	春期播種夏期收穫する者にして用法二年子大根に異なるなし
瀧の川牛蒡	春三月及秋九月	
砂川牛蒡	仝	前種に次ぎて良品出
大浦牛蒡	仝	根身の偉大なる恐らくその右に出づるものなし
梅田牛蒡	仝	前種より稍小なり
大和牛蒡	仝	根身巨大京都[illegible]にて栽培す
[illegible]牛蒡	四月中旬	
夏蕪	二月中旬より三月上旬まで	
根深太葱	三月上旬より五月上旬まで	
千住葱	仝	根身長大品質良好栽培容易
岩槻葱	四月中又九月中	葉身柔く甘味多く美なり
下仁田葱	仝	[illegible]大にして甘味あり
分葱	三月上旬より五月上旬まで栽培して種類多し	
[illegible]	四月中又九月中	
蕃茄	二月下旬より三月中旬まで	
大瓢簞	四月上旬	
千成瓢簞	仝	
丸瓢	仝	
長扁蒲	自三月中旬至四月上旬	
丸扁蒲	仝	
日光蕃椒	自三月下旬至四月上旬	
八房蕃椒	仝	
鷹の爪蕃椒	仝	
[illegible]蕃椒		
青縮緬紫蘇	三月下旬	
[illegible]香菜子	仝	
洋芹	四月中	
羅勒	仝	
甜菜	四月中	
蜀黍	自三月下旬至四月上旬	
草綿	五月上旬よ	
除蟲菊	春四月中 秋九月中	花葉共無血虫類に有害なる性質を有する被害虫を除くの効著るし

草花類

牽牛花各種 丈夫なる一年草にして春彼岸に種を床蒔にし後花壇或は鉢に植移す其色數十種あり

萬壽菊 春彼岸過ぎ種を下し夏秋に至り單瓣の花若くは樺花を開く花は美觀なれども葉莖少しく臭氣あり

翠菊各種 春秋彼岸に種を下し一二寸に成長のとき花壇或は鉢に移植すべし春蒔は秋月秋蒔は翌年夏月に開化す

天人菊 春彼岸に種を下し五六葉のとき花壇に移植す七月頃に開化秋月に至るまで咲續く切花とするに宜し

ひな菊 丈夫なる宿根草にして花に單瓣重瓣色に紅白の二種あり頗る美麗なり四月下旬播種し八月頃より漸次開花す

はるしや菊 春秋共に種を下す後花壇に移植すべし夏秋の際枝を生じ毎頭一花を着く切花となすに宜し

ひゑんそう 春月種子を下し後移植すべし夏月に至り紫白桃色等の花を開く美麗にして頗る奇なり

紅蜀葵 丈夫なる宿根草にして春月種を下し翌年夏月より秋月の頃まで大輪の紅花を開く眺むるに宜し

桔梗 内外各種 春秋彼岸に種子を下し夏秋紫白の單重の花を開く七草の一種なり

鳳仙花 八重各種 丈夫なる一年草なり春月種を下し夏月に至り艶麗なる單瓣の花を開く紅、白、紫、桃色、絞り等の數種あり

月見草 春秋彼岸に下種すべし夏秋の間淡黄の花を開く花ちりて後直に反下す其狀頗る奇なり

アメリカ白鮮 丈夫なる宿根草にして春月種を下し七月頃佳香ある奇花を開く花季連綿として秋月に至るも絶へず

たわらむぎ 春月種を下し夏月俵狀の穗を垂れ優美にして盆栽と爲すに宜し

向日葵 丈夫なる一年草なり春月種子を下し夏月黄色の偉大なる花を開く故に大に珍重せらる一重二重の二種あり

王不留行 一に道灌草と云ふ春月種を下す初夏に至りて五瓣の潔白なる花を開く一年草なり

連理草 一年草にして春月種子を下し夏時に至りて花ひらく

赤白るこうそう 丈夫なる蔓草にして春四月種子を下し三四葉の時移植す長するに從ひ篠を立て纒はしむ

柳穿魚 宿根植物にして春秋彼岸に種を下し夏秋の間紅、白、黄絞り等の花を開く頗る奇觀なり

金盞花 春秋彼岸に種子を撒蒔し後花壇に移植す初夏より秋末に至るまで絶へず花を開く紅黄色又は淡黄色なり

錦葵 春秋彼岸に種子を撒蒔し後花壇に移植す夏月に至り葉腋毎に花を開く

たんぎく 秋月種を下し後移植すべし秋月葉腋毎に一枚を出して多く分叉し紫或は白の花を綻開す

黄蜀葵 丈夫なる一年草なり春四月種を下し秋月葉間毎に一花を開く其花五瓣淡黄色なり根は抄紙の粘に用ゆ

小連翹 春月種子を下し翌年夏秋の交梢上に單瓣五出の小黄花を開く其實金瘡を治するの効あり

孔雀菊（くじやくきく）
形狀萬壽菊に似て稍小さく春月種を下し後移植す七月頃より晩秋に至るまで開花す切花に宜し

夜落金錢（やらくきんせん）
春月播種し成長の後葉腋毎に五瓣深紅の小花を開く最も愛すべき一年草なり

貝細工（かいざいく）
春秋種を下すべし夏秋の間絶へず開花す其花強硬にして枯るゝさ雖も蕾の如し色に種々あり

風船かつら（ふうせんかつら）
春月彼岸の頃下種し後移植す夏日に至り奇狀なる丸き莢を結ぶ其形によりて名あり

松葉牡丹（まつばぼたん）
花は絕美なる光彩ありて普く人の愛賞する所なり春月種子を下し夏秋の間續く開花す

金雀花（えにしだ）
春月種子を下し後移植す翌年又は三年の後黃金色の蝶形花を開く其状恰も金雀の飛ぶに似たり

[illegible]（きん[illegible]さく）
宿根草なり春月種を下す翌年夏月深赤色の花を開く實を採りてゝすに製せば光澤あり假貸し

矢車草（やぐるまさう）
春秋彼岸に種を下すべし夏秋の間紫又は桃色なる矢車形の花を開く花壇に植ゆるに宜し

耬斗菜（をだまき）
宿根草にして種子は春彼岸に播種す葉は針形に似て小し夏に至つて枝の梢に五瓣の紫花或は白花を開く花美麗なり

をしろい
丈夫なる一年草なり春月種を下し一本立にすべし夏月より秋月まで開花す佳麗にして芳香あり

秋海棠
丈夫なる宿根草にして春月種を下すを宜しさす秋の初より末に至るまで花を開く陰しき地を好む植物なり

千日紅（せんにちこう）
春四月種子を下し後移植す夏秋の間球狀の花を開く紅白の二種あり切花さなすに宜し

八重百日草七色（にちさう）
一に浦島草さ云ひ丈夫なる一年草なり春月種子を蒔き七月中旬より十月下旬まで絶えず開花す甚だ美麗なり

日々花（にちにちくわ）
春の彼岸に下種し三四葉の時鉢又は花壇に移植すべし夏に至り紅又は白色の花を開く

にはせきしやう
春秋彼岸の頃種子を下し後花根にすべし翌年春月より夏月に掛け淡紫色又は白色五瓣の小花を開く宿根草なり

かつこあざみ
春彼岸に床蒔し成長の後庭園に植ゆ夏月に至り小なる紫花を開く切花さなして妙なり

蓮
春月宿根より新芽を生ず色に紅白の單重二種あり香氣高し種子は春月下し翌春又は三年後花を開く

[illegible]
丈夫なる宿根草にして初夏に至りて葉を出し花を開く種子は春月に下し三年の後開花す

燕子花（かきつばた）
丈夫なる宿根草にして水澤地中に生ず紫或は黃白等種々あり初夏を開花の盛りとす

玉蟬花（ぎよくせんくわ）
丈夫なる宿根草にして最も濕地を好む植物なり春月上種より三年の後開花す種類は三百以上なり

[illegible]
春彼岸の頃種を下し後移植す七月頃より葉腋に黃色の花を開く其實れむの如し

落葵（つるむらさき）
蔓性植物にして春月種子を下ろし夏月蔓延し花は白色の小花にして後紫色の實を結ぶ其實を絞りて紫の染料さなす

（以下次號）

右の表は農學士渡瀬寅二郎氏の助力を得て製す。同氏所管の興農園は東京赤坂溜池町五番地にあり種物を販賣し、且つ質問に對し信切に答へらる。

閑書

女學生より主婦となりたる人の述懐

賤の女

御尋ねの件甚だ疎漏ながら心覺への廉々已左に御答へいたし候御笑覽被下候上女子敎育てふ大經綸に對し草の枝折の片われともして御用ゐ被下候はゝ小女のさちこれに超ゆるもの無之候

婚後既に滿五年必ずしも長き年月には無之候へども小女が數にもならぬ小生涯の中何れの點より考ふるも決して等閑ならぬ時期と覺認いたし候

人の生涯を假に襁褓時期、修學時期、執務時期と定め候て第一期は第二期の準備とし第二を第三の準備としてさて又在世時期を擧げて未來永遠の生長發達の準備と見做し候へば小女が婚後五年は即ち其三期人世行路の修業彌重く彌密に彌面白く相成候時かと考へ申候

されば人に後れて、卒業後もゆる〳〵學校に滯在いたし日頃既にホームを造り家族に於ける主婦としていと貴く重く責任も希望も充ち滿たる位置を占め玉ふ「小女の先輩等が誠しやかに「あなた方が一番お羨し」とか「私どもの樣な世話女房が何の益をいたしましょう」とか「學校に居る間が花だ」とか「私どもの樣に引込んでは智識も何もかも退歩する計り」とか喞たれ候て恰も此第三期が人世發達の蟄居時代の如く申され候とは眞の空言にて當座の愛嬌を振り撒かれ候とと今更悟り申候

ホームは婦人に新天地を開き候よ、敎課書にこそよらねホームに於ける敎育發達は万〻學校敎育に劣らぬと、進歩退歩さへ一々認め得らる可きよなど小女が五年間の經驗に徵して確かと信じ候よに御座候元より在校時期は在校時期特有の利益あり特權あり歡樂有之候て一度書生たりし人は誰も決して忘れ得ざるとと考へ候小女などは迚も

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

迹も忘るゝとには無之候さりとてメーデンフッドの小流れたゆたひつゝも一旦ウマンフッドの大河に合ひてこれに和し候上はいかで元の小流れに立歸らんとを希ふ可き！其岸には草葉たゞよひ育つるの床しく、懸撫づるしらべのいかに妙なりとも筏を流し真帆片帆浮ぶるの雄壯なるに爭で及び候はん！

美術もよく歴史も面白く候がヒユマニチーの大問題を論じ近く親しく研究するの高尚なる趣味の勝れるには如かずと存候

ほだしなく責任なき自由なる身の逍遙、又は保護者の熱愛必ずしも愉快には相違あるまじさりとて一個の主婦となりてホームの[illegible]、また[illegible]り成るのいさゝも品位高き義務を遂げ行くこそ愉快なる一段の進歩を加へたるものに候はん　（未完）

小詩體諸嗜居士、
良有詩人識此心

寄書

見聞隨錄

白津川生

○無識の境界

吾人に二種の無識ありと云へしは、サー、ウヰリアム、ハミルトンなりしが、所謂二種の無識とは、一は既往の無識にして、吾人が母の胎内を辭し、此世の風に吹かれ始めし時にて、一は吾人の知り得べき事物は、悉く知り盡して後得る、未だ一事物をも知らざることを知り、恰も生れし時の始めの無識と、吻合して同一の無識に歸するとなり。前者は小兒の無識にて、後者は大哲人の無識なり。されば無識なるものは、無識を知る能はず、無識者に非るものは無識を知るを得るなり、老子いはく、知るものは言はず言ふものは知らずと。言葉多くして行の伴はざるを戒むるの言なるべし。今日多く言ふものは、多く知らざるの徒に非ずや。孔子いはく、知らざるを知らずとせよ之れ知るなりと。知らざるとをも知れるが如くに粧ふて、誇り言ふものは、之れ知らざるの徒なり。我れは何をも知らざるとの一事を知るまでに至りては、識者の無識なり。何事をも知らざるとを知るは、既に知るの始めならんか。前者は最後の無識に達せんとを、之れ力むるに過ぎざるなり。而して之に達する門には必ず小無識に入り、自己を沒するの境に至るを得ば、既に進歩の望みありといふべし。

○一二、の定見

少年が先つ一の哲學書を繙き讀みて、其の學說を奉ずるに至り、其の書中に自己

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を没したるときは、已に其說に同化し、宇宙の祕密も、人生の眞機も、皆この說をもて聞き得べしと信じ、意氣揚々にして定見具はりたらんが如し。更らに他の學說を見聞せば前者と比服し、又更らに他に移り、斯の如くして幾千數に至るも、自己を没するに至るを稀れに、大凡一家の定見を有するなり。されど一家の定見なるものは、將來に於ては技術上に於てこそあり得べきも、眞理の明白となりたらん時は、學理界に於てあり得べからず。さりながら斯かる境界は今日に於て望むべからざるものなれば、各自信ずる所を撓まず發揮し、各個一定見あるを要す。唯〻の哲學者は、成るべく自己を沒せんとを力めざるべからず。一旦眞理と確信せば、偏見を捨て、之に移るの勇氣あるべし。古來の大哲學者は皆斯くなしたりしなり。

○學者の無學

學者の無學に數種あり。一は學んで後に無識に至るもの、一は學ぶ所のものを、實行するを能はざるもの、一は敢て實行を期せざるものなり。一は最上の哲學者にして、一は才力なきもの、一は茶湯生花を樂む如く唯學を嗜むものなり。想ふに學は學ぶを以て目的とはせず、學ぶ所を行ふを以て目的とす。眞理を發見するも、之を應用せざれば、發見せざる時と敢て異なるとなけん。

○明日なきを知らずして獨逸國に書籍を注文す

明日ありと思ふ心の仇櫻、今よひ嵐の吹かぬものかは、とは、げに世の常、人の常なりけり。一靑年あり、いたく審美學の研究に心をこめ、日每に上野圖書館に行きて、諸書を涉獵し、美學に關する部を抄記し來り、數多の册子を爲す、一旦消魂に誘はれて、病院に入りしが、美學の研究は生平と異ならず、醫師の禁を犯して書見を止めず。病床にありて購求せる書、幾十種、中にはシルレル詩文集、ハルトマン美學史、ロゼンソンクルツー譯の獨逸譯、ゲーテ全集等の獨逸本ありき。彼を繙き此を披き、解せざるものあれば先つ不肖に計る。病愈篤くして學に志す益深く、終に余に托してハルトマン審美學を、獨逸の書肆に注文せしむ。日ならずして不歸の人となりぬ。今や此友なく遙かに船載し來れる書は、不日我机上に供へられんとするに至れり。亡き友を懷ふて感慨湧くが如く、熱涙思はず袖を濕ほしぬ。亡き友とは誰ぞ、上州三波川の飯塚猪三郎氏にぞある。

○浮世なるかな

學若し成らずんは、死すとも歸らずと、意氣揚然として東都に遊學せる一靑年ありけり。師範學校を卒業し來り、府下の一私立小學の敎師となり、五ヶ月を經て病床に臥しぬ。死に就くの前日、前程万里の希望を齎らして、空しく死に入るを嘆じ、始めは號泣して止まず、終に狂ふて爲す所を知らざるものゝ如し、呼んで曰く、噫浮世なるかなと、人は云ふ毅然として死期をよくするは、武士の習ひなりと。然れど前途多望の士が、業を爲さずして空しく黃泉の客となる。浮世と呼ぶこそ理りなれ。我れ之を目擊して云ふべからざる感溢れて禁じ得難し。

○妻の死と子の死と

或る人九歲の女兒を失ひ、其の內君亡き子を悼みて、暫らくにして不歸の人となる。我れ問ふに、妻の死と子の死とに於ける感情相均しきやを以てす。答にいはく、旣に人の親となる多少世上の有樣を知り、甘きも辛きも經驗せるもの少しとせず、悲しやと思へば夢にも見、現にも其姿あらはる。されど小兒に至ては、未だ世上を知ること少なきのみならず、妻に對する愛情に比して大に違ふ所あれば、唯何んとなく、憐れと悼ましさ深し、妻の死は忘れもせん、子の死は忘るべからず。妻を愛せざるにあらず、子を愛すると更らに異趣あればなりと。極端の利己主義を信ずる或る老先生は、其行爲必ずしも利己にあらず、げに博愛家の行爲あり。されど學說上、利己主義にて萬事を解釋したりしが、但し書を付していはく、子に對する愛情のみは、利己主義にあらずと。噫親の愛は單に動物的の利慾をもて釋說し得る限りにはあらざりけり。

○自殺と悔改と

凡て宗敎の組織には、悔改を重んじ、以て其奧に達するの門口とはなす。悔改の眞味は、一旦心に耻づるとを爲したるものならでは、素より知り得べからず。自殺に種々の原因ありと雖も、或る事情より自殺せんと計るときは、悔ゆるとの極端に達し、暗黑裡に入りしときなり。されど心に耻づる行爲あるも自殺すべきも

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

のとすべからざるものとのけじめあるべし。かの珍事多聞に出逢ふも、鬱憂の種となり。前途の希望も何れへか失せ、氣力頓に挫けて、天地味氣なく萬事懶うし。以て自殺せざるべからざるに至る。自殺は必ずしも排すべからず、されど此境界に逢して、人生を觀念し、悔改めて始めて人となる、永く悔ひて斷乎として改むれば、すが〳〵として快ちよし。悔改むれば惡鬼も天使となるとは、誰が云ひそめし言の葉にや、些かにても、眞心に耻つるとあらんか、自殺までに悔ゆべし。斷乎改むべし、必ずしも死するを要せず。

○文章を成すの一法

文章に拙劣なる或人曰く。演説家が、壇上に立つて演ずるの要目を紙片に書き記すが如く、凡て文章を作らんとするときは、書くべき事項を大別して之を記し、又更らに枝葉を付し整然たる一組織を作りて、後ち筆を取らんか、假令小徑に入るも、秩然亂れざるものあり、筆を取て後、考へて書き、書きて又考ふる如くせば、時間を費すと甚たし。右の如くして熟練したる後は、直に筆を取り、直に文を成すを得べしと。こは全く素人の所作に過ぎざれども、初學者の一法として不可なからん。

○鬱憂病の矯正策

鬱憂病は、生理上、心理上より大に研究するの價値あり。此病は自殺の原因となるとまゝあり。近頃青年中に鬱憂病に惱むもののあるを聞くと屡々なり。此病に對しては醫學上の定説、心理學上の定論もありて、事々しく汎するの要なかるべし。之を矯正するの策は如何。想ふに此病多くは不如意より來る。或るは金錢、或るは學問上或るは戀愛、或るは氣候其何れを問はず不如意を矯正するにあり。故に

一、上位を見ずして下位を見、富貴を見ずして貧賤を察し以て知足の見あるべし

一、元氣を增すものは、希望なり故に希望の光を輝かし力めて公共心を發生すべし。

一、一角はなかるべからず、されど一角持ちたるものたらんより、寧ろ圓くならんとを期すべし

一、日頃嗜好せる書を繙ぎ、又大人の傳記及び詩歌集を讀むべし。

一、自己は社會の一人にて責任あるものなるを觀ずべし。剛健質主義を取るべし。

一、談話は鬱散劑なり故に自己の上に位する人と談し、又下位にあるものと語すべし。

一、何事にても嗜好するものゝ上に、心を傾くべし。須らく執着すべし。

一、自重心を強くすべし、又野外の遊步を試むべし。

一、須らく世を飲むべし、誰れ人も大た違ひのあるものにあらず世人に飲まれざるやう力むべし。

一、世の所謂寵兒等の內慝の如き左より見聞して右より忘去すべし。

右にして矯正し成す能はざれば、自殺するまでに、至るべし此病に罹りて倫は、癒やし得ずんば、人の價値已に失せたるものにして、緣なきもの濟度し難しとやいはん

兒藍

鳥のはなし

しづ子

房子はきのふ伯母にねだりてカナリヤ一ト番ひ買つて貰ひ升た。それを買ひに鳥屋へ行升た時房子はまだ見たものもない珍らしい鳥をいくらも見升た。房子が其中でも一番珍らしがつたのは七面鳥でした。伯母は房子に此鳥は元北アメリカに居た鳥で歐洲へもこちらへも段々擴つて來たといふと、始めは野生の鳥故、庭鳥や鵞などと一處に飼れるまでには餘程六ヶ敷かつたのだといふよ飼すとも外の鳥の様ではなく至つて面倒だといふと一時癇癪らしい鳥だけれど、實は臆病で濕氣のある處へ置けば死ぬるとが多いといふとなど話して聞かせ升た。其中に楷拾ろひの小僧が通りかゝつて面白半分に其七面鳥をつゝき升たので、七面鳥は大怒りに怒つて尾羽を團扇の様にひろげ、鶏冠の様な嘴の下に垂れた赤い皮を膨らし見る〳〵血相かへて大怒鳴りに怒鳴り升た、房子はビックリ致し

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

升た。さうして伯母の袂の下へ匿れ升たが、段々見て居た中に、腹を立様子が餘り可笑いとて手を拍つて打興じ升た。
其時伯母が申升た。
矢張り此鳥も癇癪持なんですよ、何でも自分の思ふ通りにし度のです。さうならないと、あゝいふ風に大騒動を始めるんです、それよりはネ、房ちやん、同じことなら我慢して、少し計りのヿにトツパクサとあんな大騒ぎをせずに居れば好じや有ませんかネ、
房子は本當にさうだと思ひ升た。伯母はまた、
だけれどネ、ふうちやん、七面鳥計りじやない、まだ外にあゝいふ眞似をする者があるでせうか、自分の思ふ通りにならないと、プツプツて怒る者を見たヿが有ませんか、
房子は慥かに知つて居ると申升た。さうして子供のくだらぬヿに腹を立つのは、七面鳥の腹を立つのと違つたヿはないとおもひ、此通り馬鹿氣て居ると思ひ升た。
其次に房子の眼についたのは色々美事な羽を装つた可愛ら敷家鳩でした。伯母は房子が此鳩には種々雜多な種類がある、人間が工夫して意ふまゝの羽色の鳥を拵らへるといふも、今でこそ人の拵らへた箱の家にみんな仲よく住つて居れど、元は矢張り野鳥で岨の間や岩の穴の中へ巣を造つたものだと話して聞かせ、鳩の中で一番に益に立つのは、傳書鳩といつて、飛脚の代りに手紙を傳へさせる鳥だといひ升た。これは何もいひつけた處までどこへでも行くほどの知恵を持つて居る譯ではなく、自分の生長した處ならば、どこからでも戻つて來た勘があるからですと申升た。
房子はいつそんな鳥をつかうのです、郵便や電信のある處でも、さういふ物が入用ですかと尋ね升た。伯母の答へ升に、平和の時にはさほど役には立ぬが戦争の時などに敵が城の四方を圍んで、出るとも入るともかなはぬ時、城中の人は此鳥のおかげで味方へ手紙を遣つたり、とつたりした例しが昔しからいくらもあると申升た、手紙は鳩の翼の下へ結びつけるのださうです。
房子は心配顏に、
それでも、伯母さん、城の外に敵が其鳩を見たら弓か何かで殺してしまひやしませんかネ?
伯母は、
エー、それはたまにそんなヿも有ませう、併し大層飛ぶのが早いから、滅他に殺されやしないでせう、いつかイギリスの都から少しある處から此鳩を飛して滊車と競争させたヿがあり升すがネ、滊車よりか二十分も早くロンドンへ着したさうですよ。
房子はマア、何と早いヿかと思ひ、また眼の前の鳩を見るに

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

つけ、七面鳥と比らべて何とおとなしさうな鳥かと思ひ、わたしも鳩の様になり度、さうすれば、おつかさんが心配なさることもなくなると思ひ升た。

うつかり坊

うつかりトンマをすると誰にもある例しながら此位うつかりする人は滅他にないと思はれ升。或人時計を忘れて來たと心づき、取りに戻る暇はあるかと懐より時計を出して見たとは如何？

又外の人事務所の戸へ「外出、直ちに歸宅すべし」と貼紙に認め置き、さて已に歸宅したる時貼紙を讀みて靴脱の上に佇み己れの歸るを待ちたりとは、何れともいへぬうつかり坊では有ませんか。

統計

○貧民の病症

人の貧困に陷いるは概ね疾病に因ると云ふ客年中、東京市養育院入院者中の患者につきて病症を區別せるものに

病症	窮民 前年より持越患者	窮民 本年中新患者	窮民 合計	窮民 百分比例	幼童 前年より持越患者	幼童 本年中新患者	幼童 合計	幼童 百分比例	行旅者 前年より持越患者	行旅者 本年中新患者	行旅者 合計	行旅者 百分比例
六傳染病	—	—	—	—	—	二	二	[illegible]	—	一	一	〇、一七
傳染病	—	七	七	一、二九	—	四	四	一、四五	四	一五	一九	[illegible]
全身病	六	四四	五〇	六、九七	一	一八	一九	六、九〇	一	八	九	八、五一
神經系病	四	四二	四六	九、一七	一	九	一〇	[illegible]	[illegible]	二〇	[illegible]	[illegible]
消化器諸病	五	一一二	一一七	二一、一九	六	一四二	一四八	[illegible]	[illegible]	[illegible]	四五	一五、一七
呼吸器諸病	八	五八	六六	[illegible]	二	一五二	一五四	一八、五五	[illegible]	四八	[illegible]	一四、四一
血行器諸病	二	一三	一五	二、九七	—	—	—	—	[illegible]	五	五	九、九〇
皮膚及梅毒性諸病	八	二一	二九	七、七七	九	七八	八六	九、五	一	二	三	五、二八
泌尿及生殖器病	五	二一	二六	五、一五	一	八	九	[illegible]	二	二	四	五、一八
産科及婦人科諸病	三	二〇	二三	四、六八	—	—	—	—	—	五	五	〇、八七
外科的諸病	六	一四	二〇	[illegible]	四	二七	三一	八、八	[illegible]	二	[illegible]	九、三
耳科諸病	二	一六	一八	[illegible]	—	四七	四八	五、四四	一	二	三	—
眼科諸病	七	八	一五	[illegible]	二	二八	三〇	八、四四	二	二二	二四	四、八二
畸形病	—	—	—	—	—	—	—	—	[illegible]	[illegible]	[illegible]	[illegible]
合計	五六	四八九	五四五	一〇〇、〇〇	二八	八四八八	[illegible]	[illegible]	一七	[illegible]	[illegible]	一〇〇、〇〇

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

前表に出れば窮民の最も多く罹る所は消化器、眼科及呼吸器等の諸病にして幼童は眼科諸病最も多く呼吸器、消化器等の諸症之に亞ぐ消化器呼吸器は中等以上の社會と雖も之を患ふるもの丶多きは余輩の平常知る所なるも眼病の何故に此社會就中幼童に多きやに至ては或は特色とすべき原因の存するものあるには非ざるか行旅者の如きは亦消化器、呼吸器を病む者多く別に考ふべき價値なし（統計集誌河合利義氏に據る）

○軍人間の忌はしき病

左に掲ぐる數表は梅毒の如何に我兵士間に浸染するかを知り又た併せて兵士の品行如何に墮落せるかを知るに足るべく而して又た之れと共に兵士の元氣如何に之れが爲めに消磨しつゝあるかを察するに足る、而して梅毒患者の増加は獨り兵士間のみにあらざるべし

大日本衞生會雜誌投書家山根正次氏「奈ニ此梅毒蔓延」と題する一文中海陸軍人に於ける梅毒の増減を推測する爲めに多く梅毒に使用せらるゝ明治廿五年度沃土加里の消費高を掲ぐ、左の如し

	人員	藥價總計
海軍人員	九千七百四十七人	五万五千餘圓
陸軍人員	六万八千人	二万二千五百十九圓

沃度加里消費高

海軍	千八十九圓	（一グラム一錢八厘と假定し）	六万グラム餘
陸軍	千七百圓餘	（同上）	九万五千グラム餘

若し夫れ全國陸軍々人間に於ける梅毒蔓延の景況を檢せんか

		新患者	（兵千に付新患者）
東京	十九年	一四七	一三、五〇
	二十年	一八八	一六、二二
	二十一年	一五四	一三、七三
	二十二年	一二九	一一、三六
	二十三年	一五三	一四、九一
	二十四年	二五三	二四、一〇
	二十五年	二一三	一八、七五
名古屋	十九年	二四四	六七、二五
	廿年	二〇六	五三、九五
	廿一年	一五二	四〇、七七
	廿二年	九一	二三、四八
	廿三年	八〇	一九、三五
	廿四年	一六五	三六、六五
	廿五年	一七八	三九、二三
大津	十九年	一一〇	七九、八三
	廿年	一四六	九四、六四
	廿一年	一二七	八六、五〇
	廿二年	一六四	一〇七、五七
	廿三年	一五三	一〇二、七〇
	廿四年	一二七	八七、七七
	廿五年	一〇八	七三、三二
伏見	十九年	九	五五、五一
	廿年	十七	六七、三二
	廿一年	十六	六四、二七
	廿二年	四二	一五七、八一
	廿三年	十七	六〇、六八
	廿四年	三三	一〇〇、九三
	廿五年	一四	四三、六六

（右四ヶ處兵營の外總て之を略す、同氏調査）

更らに海軍に至りては實に驚くべきものあり、今海軍中央衞生年報の報する所によれば左の如し

	患者	兵員每千比例
明治十六年	三三七	六三、〇四
同　十七年	三一六	五六、〇五
同　十八年	三七九	五四、七八
同　十九年	四三〇	五〇、七四
同　廿　年	四八七	五三、四八
同　廿一年	五九三	六四、五七
同　廿二年	七七二	八六、二三
同　廿三年	八八八	九七、四五
同　廿四年	九四二	九二、一五
同　廿五年	一、〇八五	一二一、三二

即ち陸軍に於いては東京に於いて十九年に於いて千に對し一三、五〇なるもの二十五年に於いては一八、七五に進み名古屋に於いては六七、二五より三九、二三に退き大津に於いて七九、八三より七三、三二に退き、伏見に於いては五五、五一より四三、六六に退き全體に於いては却て多少減少の傾向あるが如しと雖も海軍に於いては十六年に於いて千に對する六三、〇四なりしもの廿五年に於いては一二一、三二に至りしなり、亦た驚くべき蔓延にあらずや（國民新聞に據る）

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

論説

小兒の研究

學問界の一新科門

獨乙にはプレイヤー氏アリ。米國ニハ博士ヂョーヴ、スタンレー、ホール氏あり、アンニー、ホーエス、バーンス夫人ありて、各々小兒の研究に從事せり。然れども此研究は未だ一般に教育界の注意を惹くに至らず。未だ小兒研究學なるものあるを聞かず。又其必要を唱ふるもの稀なり。然るに近者オスカア、クリスマン氏ありて、本年二月發兌の米國ノオラム雜誌に寄書して、小兒學てふ一新科學の創設せざるべからざるを絶唱す。其論旨肯綮に中り、蓋し學者社會に一大問題を喚起するに足るべきものなり、予今茲に其論の梗概を摘譯して、我國の讀者に紹介せんとす。

オスカア、クリスマン氏ハ、米國クラーク大學に在りて教育學を專攻する處の一學士なり。此クラーク大學は實に米國文部官ハリス博士が小兒研究の先唱者、根源なりと稱したる心理學及教育學の泰斗スタンレー、ホール博士が以て校長たる處なりとす。予思ふに此大學は此兩氏を有して、他日或は天下に向ひて小兒學なる一新科學を唱導し、クリスマン氏がいへる如く、將來、小兒の保育、待遇の現狀に一大改革を起さしめて年々歲々、此世に生れいづる、幾百万の孩提をして、其恩澤に浴せしむる處となるに至ると無きにしもあらざるべき乎。

佐倉一郎談

予熟々思ふに小兒なるものは、單に之を教育學、或は心理學の一部分としてのみ研究するに止まるべきに非ずして、之を以て、一個の純然たる獨立科學となし、生理學及心理學に於けるが如く、之を一心專攻する幾多の學士の出でゝ、科學的の攻究をなすべきものに非ざるか。大學及師範校の教育科に於ては、教育哲學、教育史及學校管理法を研究すると共に、人類學者、心理學者及生理學者が小兒に關して攻究する處のものを取り來りて、大に研究すべきものに非ずや。夫れ植物には植物學なるものあり、動物には動物學なるものありて、各々一科の純然たる科學をなし、動植物の眞相を說く。然るに動物、植物よりも更に重大緊要にして、直接吾人と關係するもの即ち、吾人人間の發達成長期なる小兒時代の性質、發育、成長等に關する攻究をなすとなくして止むべきに非ず。之が爲。一個の確立したる科學の存在すべきは當然の理なり。

○純乎たる一科學

小兒を研究するは、全然一個の嶄新なる科學にして、大學及

中學に於て學修せらるべき一新學科なり。予は今この新科學を稱してPaidology即ち、小兒學の名を附せんとす。斯學たるや、小兒（予は出産時、或は出産前より成人に至る迄の時代を概稱して小兒といふ。）の生命、生育、思想及其眞質を研究するを要務とする一個の純粹なる科學にして、恰も植物學の植物を於けるが如く、礦物學の礦物に於けるが如し。小兒學は敎育學に非ず。敎育學なるものは元是れ一個の應用科學にして、小兒學の敎育學に於けるや、神學、醫學に於けると敢て擇ぶ處なし。唯敎育學は主として小兒に關するものなれば、其點に於て、小兒學と稍密切なる關係を有するのみ。小兒學は小兒の各種の現象を悉く研究して、其結果を敎育學、醫學、神學、及育兒法、家庭敎育等の上に及さんとするものなり、小兒學を以て、大學、師範校或は高等學校の一專門科となすべしとの思想は今日に至る迄、嘗て一度も學者の頭腦を訪れざりしはまた奇怪に堪へざることならずや。時としては敎育學上よりし、時としては又心理學上より、或は又人類學の部分として、小兒を研究することなきに非ざれども、之を以て一個の純然たる一專門科として、攻學するもの未だ嘗て是れあるを聞かず。

○小兒學の必要

大學及中學等に於て、此特殊なる科學即ち、ペイドロヂーを學ぶの必要果して存するものなりや。見よ學校に於て敎育學科、心理學科、哲學科等の開設せられてより、日既に久しきに亘れども、翻つて思ふに吾人が小兒に於ける智識夫れ幾許かある。熟々顧みて吾人の智嚢を探らば、哀にも吾人が小兒の眞相に關して知る處、殆ど空きを知らん。幾千百の男女小兒が學校より、家庭より棄られ、終には社會より追放せらるゝに至る基因に預りて、吾人果して幾許の智識をか有する。此等の事實を以て、些細の生理的の原由に歸して、恰も耳宮腺の耳蠟を分泌するが如きものとなすべきか。吾人が學校若くは家庭に於て、妄なる待遇をなせるかの可憐なる小兒は精神薄弱にして、假令服從せんと欲するの念は多しと雖も、意志の力弱きが爲に、吾人の命令に服膺する能はざるものなりとするは其當を得たるものなるや否や、吾人未だ瞭然として知了する處あるなし。夫れ地上に於て吾人の攻究すべき最大至要の問題は小兒なるものなり。

（以下次號）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

書　架

○鼎軒氏の夫婦論

三月三日の經濟雜誌第七百十五號に、田口君が「夫婦論」あり。生物學上の一説として、笑つて一讀せしが、近頃ろ稍や論議あるもの丶如し。即ち茲に、其大體を言はゞ、君は「從來何ゆゑ人類社會に夫婦なるもの發せしやを疑へり、何となれば他の動物に於ては夫婦なるものなければなり」と。遂に「此の奇異なる現象の原因を以て人類の記憶力に歸せんとし」諸に云く、

抑も親族相續の源たる決して物を盜み人を偽るが如く他人を害するの行にあらず、之が爲に何人も損害を蒙るとなし、殊に吾人の祖先皆な之を行ひて以て此大なる人類を世界に發生したるならずや、然るに今日の宗教之を禁じ今日の法律之を罰するは全く今日の風俗と異りたる行爲たるが爲めならずや、

余は其他に於て一理由を發見する能はざるなり。

然りと雖も吾人人類社會をして他の動物社會の如く夫婦なからしめんには、親族相續素とより頭腦にあらず、而して世界婦人の頭なからべし、夫れを此等の日本法律凡て夫婦と云へる現今の社會に發したる後に出發すべき自然の結果なり、去れば夫婦の制を存して此等の行爲を有罪として罰するも利か、將た夫婦の制を打破して此等の行爲を放任するも利かは、吾人の宜く研究すべき問題なるべし。

いつもながら大膽なる判斷と云ふべき乎　モルモン宗徒多妻を許すとすれども、實際好んで何は男妾を擇むもの誰かある。夫婦の制は、愛情に由ると多きの理なり。又た、何故夫婦制が初めて世に發せしやに付きては、數多の元因あり。單に記憶力の一事にて概括せんとするは、酷にして且つ究屈なり。

○日本女學

三十二頁の小冊子、何如なる事を記せしやと見るに、總べて女學雜誌の社說中より拔いて、青森の女學校の父兄に見（よ）さんとて印刷せしものなりき。

○印度物語

大島正健氏が、夜每に家の子供にはなしきかせられし物語を、夫人が筆記せられしものにて、手短かながら教のこもりたる處ろ、伊蘇普物語にも勝りたりとぞ云ふ。

○女子教育勅語例解

山口與喜治うしの編輯にて小冊子とす。一と通りの文解に、古今の女傑が例を加へ、且つ畧傳を插入したり。

○小說百家選

春陽堂より每月二回發刊せんとす、幾度讀ひても感歎措く能はざる大家の傑作を編むものとぞ。第一卷には、紅葉の都の風。大和田の舞衣與に有馬竹。花溪の赤毛布。饗庭の願論などあり。

○浮世見物

現代のあらゆる社會を知り、知るよりも更に自由に書かんもの、櫻痴居士に若くはなし。其小說のよしあしは暫らく論ずるを休めよ、當今の時状を見るに、面白くして益あるは此書なお推さんか。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

片々

○小兒の死亡及び原因

人間の死期は、小兒の時に於て最も多きとは、統計學者の證明する所にして、あるは早婚の結果より、あるは母親の弱きより、あるは食物の不適當なるなど樣々の原因あるべし。茲に去る三日の『教育報知』紙上に載せたるものを摘錄せん。こはサクソン國に於ける一歲未滿の小兒の死亡及び其主なる原因に就きて、統計的調査を成したる成蹟なりと云ふ

一、乳兒の死亡數は甚大なり

二、此の如き死亡數は主として其母の小兒を自ら哺乳せさる習慣に基き又私生兒の數に關係す

三、乳兒死亡數の減少を圖らんとするには主なる原因を知らさるへからす故に自然の營養を給し惡習を除かさるへからす

四、貧困、亂酒賣淫を防ぎ又住家を淸潔にし其他一般に淸潔法を要するを得は乳兒死亡數は從て減少すへし

五、熱強き空氣は乳兒の死亡數を增加せしむ故に大都府に於ては暑氣の氣候或は溫潤し或は冷却せしむる方法を施さゝるへからす

六、工業都府に於ては工夫等の住家を市外に設け且女工に就ては產前產後各六週間の休暇を與ふへし

七、乳母の撰擇に就ては嚴格なる警察衛生的の檢査を行ふへし

○名媛の紹介

府下の新聞紙中、婦人社會に意を用ひ、屢々名媛を紹介するは「讀賣」「二六」「新朝野」なるべし。「讀賣」は特新らしく言ふまじ「二六」紙上には、先頃跡見花蹊女史を始め、棚橋絢子女史の性行を叙し終り、「新朝野」は日本唯一聖堂畫師山下女史の立志談を載せ、去る頃より名媛譚と題して、桂だい子女史の性行を叙せり。何れも珍らしきふし多く婦人の一讀を價するものといふべし。

○町村小學の女子教育

「教育報知」四百十一號紙上に、澤藤久吉氏なる人小學の女子教育に就て、考案を立てたるものあり。今其要旨を摘錄せん、曰く女兒は男兒と比較上發達の進度、成育、順序大に異なるものあれば、學年の始めを一ヶ年延ばし滿七歲より就學せしむべし、又高等小學女兒の修學を調査するに、躰力の家事に耐へ、業に就き得るに至れば、二學年の修業をなすと同時に、退學するもの十中の八九なり。故に女子高等科を凡て二學年

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

となすべし、現今課する高等小學科目は專ら男兒を主としたるの跡瞭然たり、故に女子の尋常科にては三四兩學年とも修身、讀書、作文、習字、算術、裁縫の六科とし、高等科及補習科に於ては之に家政の一科を加ふべし、家政とは育兒法、家庭教育法、衛生法、簡易療治法、看病心得等より食物の調理法、金錢經濟法等に至るまでをいふ。程度は男兒より一段を下し算盤上の計算は專ら暗算に熟せしむるを要す。時間の如きも、高等科及び補習科に於ては、學科の教授の時間を日々三時とし午後に教授すべし、教室の如きは男兒と分離せしむべしとなり。蓋し大に考究すべきものなり。又同氏が考案に基ける學科程度表といふは左の如し。

○尋常科

學科	第三學年 程度	一週時間	第四學年 程度	一週時間
修身	婦女として具ふへき德操及作法	三	前學年の程度	三
讀書作文習字	平易なる國文の記事(家政、理科、地理、歴史)消息の讀方書方、作方	一〇	前學年の程度	一〇
算術	一千以下の數に於ける加減乘除 五百以下の數に於ける暗算	五	五千以下の數に於ける加減乘除 一千以下の數に於ける暗算	五
裁縫	衣服ノ洗濯、解剖運針法		同上、簡易なる衣服の仕立方、補綴法	

○高等科、補習科

一二兩學年

學科	程度	一週時間
修身	擧動、一般の婦德、諸禮法	二
讀書習字作文	家政、理科、地理、歴史等の事項を平易なる國文にて記述せしもの及消息文の讀方作方書方	九
算術	簡易なる比例、利息法、日常帳簿の記載法、一千以下の數に於ける暗算	四
裁縫	衣服の洗濯、補綴、仕立方	
家政	簡易なる衛生療治、看病、育兒、家庭教育心得、食物の調理、日常品の製法、經濟等	三

○關西女子教育會討議題

一女子及女學校に關する問題

一 女子の長不長の點は何そや其不長矯正策如何(若し必要とすれは) (山陽)

二 基督教主義の女學校と他の女學校との優劣如何 (同)

三 學校的女子教育の失敗と見做すへきものは何そや (同)

四 宣教使女學校は今日のまゝにて宜しきや (同)

五 女學校を目的に從て二種に別つこと(學問を以て立たんとする人を養成するか家庭を整理すへき人を教育するか) (金城)

二學科全體に關するもの

六 普通科は高等小學卒業後何年にて足れりと為すへきや (金城)

七 基督教主義女學校普通科課表編成の件 (同志社)

八 教科書(殊に和漢學)撰定のこと (金城)

九 教科用調査委員を設け毎年會の節報告すること (山陽)

十　學級を區別する法（凡ての科程に於て其最も後れ居る所を標準として學級に編入すべきか將た學力に應して或科は上級になし或科は下級となすべきか）（金城）
十一　學問と技藝を教授する權衡如何（山陽）
十二　定期試驗を廢するの可否（同）

三　各種の學科に關するもの

（1）德　育

十三　聖書教授の方法（梅花）
十四　聖書讀書教授の順序（同志社）

（2）智　育

十五　神學者に用ゐしむる漢書の良書及其教授の良法如何（神戸）
十六　如何にして英文學の讀書力を脩養せしむるとを得べきか（神戸）
十七　幼兒教育學を普通科に加ふるの得失（同志社）

（3）藝　育

十八　作文の件（梅花）
十九　習字の件（同）
二十　裁縫科は一週幾時にして普通科脩業中に一通り學び得べき（金城）
廿一　圖畫科は毛筆畫と鉛筆畫と何れを撰ふべきか（神戸）
廿二　如何にして音樂の價値を知らしむべきか（同）

（4）體　育

廿三　女子體育の件（梅花）
廿四　體育に良法ありや（山陽）
廿五　生徒の活力撿查を行ふこと（山陽）

四　雜　件

廿六　各學科の專門教師相集りて諮詢會てふ如き者を開くこととしては如何（神戸）
廿七　塾生最低の年齡は幾歲なるべき（同志社）
廿八　舍監の資格如何　附舍監會議を催ふすこと（山陽）
廿九　女學校連合して學藝共進會の如きものを開くの可否（同志社）
三十　來二十八年京都に於て內國博覽會開會中全國基督教主義女子教育會を開くこと（山陽）

時　報

◎學校、教育

●女子高等師範學校卒業式　同校にては去る廿四日を以て卒業證書授與式を擧行し高等師範學科、小學師範學科、並に附屬高等女學校卒業の人々に卒業證書を授與したり當日式塲に於て秋月校長の告辭、牧野次官の祝詞等あり左の如し

秋月校長の告辭　本日文部大臣閣下其他貴賓の來塲を辱くし茲に本校第四回卒業證書授與式を開くを得たるは誠に諸子の榮とす惟ふに諸子の多年螢雪の功を積て以て今日に至りしは猶草木の風雪を凌ぎて春花を呈するが如し春花固より賞すべきも秋實を結で始て其眞に賞すべきを知る諸子も亦宜しく學業を實地に應用するの秋に臨み善良の果實を收めて後始て其榮光を荷ふべし然ども余嘗て之を聞く國家教育の本は一家の母儀に在りと諸子今後人の師となり妻となり母となるを問はず均しく國家教育の一部を負擔せざるはなし其責甚し大なりとす則ち所謂螢雪の功を實地に應用し以て好果を收むべきの秋なり諸子將來より此に努力し孳々として已まざると猶從來此校に在て夙夜黽勉するが如く益々德を修め智を磨き品行を正しくし以て忠君愛國の志氣を維持するに足らば始めて眞正の榮光を荷ふに任ふべし如此なれは是獨り諸子の榮光のみならず亦以て本校の榮光とすべし諸子其れ之を勉めよ

牧野次官の祝詞　本日此光輝ある卒業證書授與式に臨むは余の最も欣喜に堪へざる所なり諸子は自今以後去りて教育上には良教師となり社會に在りては女子の標準となり常に貞靜の淑德を修め以て能く本校に學びたる所の本旨を遂するに於ては諸子榮譽は更に一層宏大なるものならん此の如くなれば獨り諸子の榮譽のみならず實に國家の慶福たり余は諸子が今日卒業の榮譽を荷ふて前途益々其榮譽を宏大ならしめんとを望む顧ふに本校設立以來師範學科小學師範學科を合せて三百三十餘名の卒業生を出せり是等の卒業生は多く各地方に散在して教育に從事し世上に良教師なりと稱せらるゝもの亦少からず此の種の教員任用は概れ本校卒業生に needsつあるの狀況に就て供給上大に缺乏を感ぜり此の如く本校生徒世の信用を得るに至りたるは特に其の養成の宜しきを得たる結果として本校の爲めに賀するに時に諸子は永く此信用を失墜することなく今後益々本校の名譽を高くし教育上の必要に應ずるに力められんことを望む一言卒業諸子の爲めに祝し併せて本校の隆昌を祈る

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

又卒業生は左の如し

高等師範學科卒業生（十六名）

和歌山縣平民　井上はなゑ　　長崎縣平民　濱武鶴代
長野縣士族　佐野富喜　　高知縣士族　吉村千鶴
大阪府平民　松本よれ　　島根縣士族　雨森銅
東京府平民　高木みつ　　京都府平民　高橋みゑ
東京府士族　木村せい　　岐阜縣士族　安藤こう
京都府士族　岡田せつ　　千葉縣士族　川崎ゆう
島根縣士族　林じやう　　熊本縣士族　原田藍
新潟縣平民　丸山ぶん　　高知縣士族　松山高

小學師範學科卒業生（七名）

福島縣士族　中澤よれ　　岩手縣士族　新渡たか
京都府平民　小金富士　　長野縣士族　山口すゞ枝
廣島縣平民　増原つれ　　秋田縣士族　佐藤絹
鹿兒島縣平民　丹下花

高等女學校卒業生（三十名）

大分縣平民　保田縫　　東京府士族　櫻村壽
東京府士族　細川淑　　東京府士族　内村志壽
東京府士族　須川梅　　東京府士族　細川綾
東京府平民　宮木滿砂　　東京府士族　細谷富貴
東京府平民　兒玉光衛　　東京府平民　五十嵐八百
埼玉縣士族　眞砂野婦　　廣島縣士族　天　や
埼玉縣平民　山川智慧　　新潟縣平民　澤田千尋
静岡縣平民　谷池友子　　東京府平民　中村伏
東京府士族　稲垣錦　　秋田縣士族　横山悦
石川縣士族　早川政　　埼玉縣平民　山田幹
東京府士族　岡田照　　東京府士族　三浦一
東京府士族　淺井龍登　　山形縣士族　羽鳥律
東京府平民　大貫清　　新潟縣平民　今井淺
山口縣士族　野村久理　　東京府華族　戸田桂
東京府平民　柳澤円十　　東京府士族　小池璃

●女兒就學に關する新潟縣の諭達　同縣にては近時學齡兒童の就學者は著しく増加せしと雖も尚ほ他縣に比して末位にあるを以て該縣知事は去る十六日諭達第一號にて左の如く一般へ諭せりと

兒童の就學は國の教育事務中最重大の關係を有す國民たる者一日も忽にすべからす今や本縣は年を逐ふて學齡兒童の就學を増加し明治二十五年末に於ては學齡兒童百人に付就學四十四人（男六十七人女十九人）に達し喜ぶべきの現象を呈せしも各府縣の状況を顧みれば輓近著しく遜少し同年末の就學比例を列擧すれば六十五人以上五縣六十人以上八縣五十五人以上十二縣五十人以上十三縣四十五人以上四縣四十人以上三縣四十人未滿（沖繩縣を除く）就中最多きは七十人最少きは三十九人平均五十五人（男七十一人女三十六人）なり、斯の如く本縣の就學各府縣の平均より下ること十一人（男四人女十七人）にして依然其末位に在るは主として女子の就學者少きに起因す實に遺憾に堪へざるなり抑女兒は保姆等に使役し家業を助けしむるに便なる爲め男兒に比し多少不就學者の多きは目下の情態に於て免かれざる所なりと雖ども前述の如く他府縣の平均に比し未だ中數に充たざるは畢竟舊慣に泥み女兒教育の必要を覺らざるに歸するものにして輕々に看過すべきにあらざるなり夫れ女子は人の妻と爲りては一家の内政を經理

し人の母と爲りては兒童を教育するの重任を有す其教育豈怠たるべけんや自今保護者に在ては自ら國家に盡くすべき責務を重んじ漫りに就學の義務を怠らざる兒童を使役す可らざるは勿論市町村の當路者に在ては嘗に就學規則を實行するのみならず益保護者を奬勵誘導し苟も此國に生活する者は何人と雖ども普通教育を受けしめざる可らざる所以を了解せしむる等務て就學増加の方法を講ず可し

●山梨尋常師範學校の幼稚園　は去る廿二日設立することとなれり規程は左の如し

尋常師範學校附屬幼稚園規程

第一條　附屬幼稚園の保育課目は行儀、談話、手技、計方、唱歌、遊嬉とし其課程は尋常師範學校長之を定め縣知事の許可を受くへし

第二條　保育時數每週二十時とす

但夏季休業前後各三週以內は十五時まで減することあるへし

第三條　幼兒の定員は九十人とし其年齡は滿三歳以上六歳以下とす

第四條　入園は豫め期を定めず幼兒欠員の都度尋常師範學校長之を許すへし

第五條　附屬小學校規程第六條第七條は祝日大祭日の儀式に關する次第及休業日に關し之を適用す

第六條　保育料は壹人一ヶ月拾錢以上五拾錢以內に於て尋常師範學校長之を定むへし

第七條　附屬小學校規程第十條乃至第十四條は保育料徵收に關し之を適用ス

●二十七年度に於ける東京府の教育費　去る廿四日東京府令第八號を以て明治二十七年度支出を定められしが其中教育費の支額は左の如し

金貳萬八千八百參拾壹圓五拾壹錢五厘　　教育費

內｛金貳萬千貳百九拾參圓四錢貳厘　　市部支辨
　　金七千五百參拾八圓四拾七錢參厘　　郡部支辨

內譯｛金壹萬六千百九拾八圓七拾錢　　尋常師範學校費
　　　金壹萬貳千八拾七圓五拾參錢　　尋常中學校費
　　　金五百四拾五圓貳拾八錢五厘　　小學校教員檢定費

●第五回關西女子教育會假執行順序は左の如しと云ふ

四月六日(金曜)　　梅花女學校に於て

第一（午前九時―十時）（一）開會の祈禱　（二）議長書記撰擧　（三）本會報告　（四）經費募集の件　（五）會則改正　（六）討議題及執行順序整理員撰擧

第二（同十時―十二時）祝日及講話　　第五（午后一時―五時）學校及工業場參觀

第四（同三時―五時）討議　　第五（同六時―七時）講話

第六（同七時―九時）討論　　四月七日(土曜日)　同所に於て

第七（午前八時―十時）討議　　第八（同十時―十一時）講話

第九（同十一時―十一時半）次回開會地議定及特別會員撰定

第十（午后一時―）懇親會(淀江舟遊)

◎美談

●麴町の孝女　麴町區下二番町六番地に住む馬場貞一氏の娘にてフミ子といふ二十ばかりの婦人あり神田橋內の大藏省の印刷局に通勤して僅かの給金を得老父母二人と妹一人と都合四人の家族を養ひ行き容貌妹飾には心をとめず朝夕父母に仕ふる狀見る人每に其孝をほむるとかや

●感心なる少女　千葉縣下天羽郡湊町大字古屋敷と云ふは鹿野山に接せる鬼泪山の麓にて戶數僅に六戶の小部落なるが此の區より湊町和合小學校迄は殆んど一里半其の間には更に人家と云ふ者なく淋しき山路なるにも拘はらず同所の川名喜兵衛の長女クニ(十年)と云へるは如何なる時にも欠席する事なく只一人通學し居ると云ふ

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●又 岡山縣賀陽郡足守村に秋山某といへるがその人以前は富裕に暮し居りしも兎角愼慾の深き人なるより僞貧窮にて難澁し居る者あれば之れを惱み救ふなど最と深切を爲す所より陰徳の應報ありてその身に幸の來るべきに世は譯られぬ動もすれば他人の爲に欺かるゝなどありしがうへに家の不幸の續きては商業さへも思ふに任せず失敗多くさりたればぞが爲めやらにて所有の田畑も賣却なして活計さへ今は不運の場合となりし中ながらぞが娘子の千年世と呼ぶは本年漸く十二歳五ヶ月にてまだ十三歳にも足らぬ少女の性質素いと直にて兩親の教訓を能く守り雨露風の厭ひなく日に〳〵學校に通ひ勤めて一日も怠ることはなく頗りに勉強なすものから漸きに足守尋常小學校に在りし頃にも常に試驗の席伴に優等賞を受け級中の首席を占むること多く裁縫會や共進會などにも學術品を出品して賞與を得ては朋友に羨れしとも陰々なりしがその勉強の功績ながされて當日は高等北陽小學校の第二年生にまで進みしが猶少しも倦む氣色なく朝は夙に起き出でゝ夜具取片付けてそこら過拭掃除をなし何くれとなく家内の者の手補助なして朝飯を終れば學校に往く準備をなし辨當携げて包を抱へながらに父母へ挨拶するも禮儀正しく登校なして課業を受くれば歸宅の後も怠らず閑暇さへあれば兩親の用たすけなる立働き夜は一室の机に依り其日習ひ受けたる箇所をば復習をなすに餘念なく若し忘却れたることあるときは暴らそれのみを究めて了解するにあらざれば夜更くるまでも臥に就かぬとかや岡山日報に見ゆ。

◎片々

●親子の洋行 下谷區稲荷町の醫士土岐政次郎氏は今回婦人科及び小兒科專修の爲め米國へ赴て同國へ遊學するに就き氏の長女カツ子は女子高等師範學校を卒業し父と同道して同國に留學する由

●醫術開業試驗 本年春期の同試驗は去る二十一日愛宕町の醫術開業試驗場にて執行し學說の試驗は二十二日終結して二十三日より東京府廳内にて實地試驗を執行せり聞く所によれば本年度の志願者は本免狀下附出願者は五十二名にして假免狀の部は二十名なりしと

●共立女子職業學校の園遊會 一ツ橋外同校にては來る四月十二日 皇后陛下行啓紀念日を以て當日午前九時より小石川なる植物園にて同校職員生徒並に校友の園遊會を催す由

○近侍宮の懲罰 宮女近侍宮なるもの從來度々國家安寧の祈禱を爲すの命を受け東門外の某寺院に參詣し何時か同寺の某僧に懇意を通し居りしが其後相互ひの出會の儘ならぬを喞ち此に一の謀を設け某僧を兵隊服裝となし常に護衛兵の模樣を爲さしめ以て宮内に往復せしめ居りしに數日前遂に他の兵隊の怪む所となり糺問せられしに包むに由なく有の儘破戒の趣を自狀に及びたりしかば國法に照らして兩人俱に斬罪に處すべき處特狀を酌量して遠島流配に處せられたり（三月十日朝鮮新報）

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

●女子生徒募集●

高等女學科

今般本館敎則ヲ改正シ六ケ年ノ高等女學科者ト爲シ英語ヲ專修スルト手藝ヲ專修スル者トノ二部ニ分ツ入學望ミノ者ハ來ル四月十日迄ニ申込ムベシ入學者ハ尋常小學科卒業若クハ之ト同等以上ノ敎育ヲ受ケタル者タルベシ月謝ハ一圓五拾錢ニシテ別ニ東脩ヲ要セズ●生徒ノ希望ニ依リ本館所定ノ學科中一科若クハ數科ヲ撰修セシム●既ニ人ニ嫁シ又ハ其他ノ事情ノ爲ニ一般生徒ト同シク出席スル能ハザル者ニハ特ニ時間ヲ設ケテ其希望ノ學科ヲ敎授ス●規則書入用ノ者ハ郵劵二錢ヲ添ヘテ申込ムベシ

明治廿七年三月

東京虎ノ門内

東京女學館

迅速撮影 機械入らず

簡便早取り寫眞術（てがるはやとりしやしんじゆつ）

此寫眞術は今回米國にて發明したる最も斬新に頗る簡便なる新寫眞法にして一たび此術を知覺せは如何なる山間僻陬にありて何人にても直に實行し迅速撮影し得らるゝものなり●**此寫眞術**は機械を要せず數種の藥劑を以て全世界の萬象を有の形其儘に**瞬間**に**早取り寫**し得らるゝもの入にても此術の秘傳書を一讀せば容易に實施し得らるゝ事（藥劑は何れの地にても辨じ至極廉價のものなり）●此新寫眞術は紙寫し「ガラス」寫しとも自由自在にて**永久不變色**の**新法**なり殊に

絹ハンカチーフ及び**綿ハンカチーフ**等への**撮影**は最も斬新にして且つ麗妙なり●此寫眞術は**壹千名**を限り

謝金五拾錢（郵税六錢）にて通信傳授す●謝金若の此秘傳書を見れば何人にても自宅にて直に出來得る事●爲替は

傳習申込所

神田郵便局あて取組●切手代用二割増し

東京市本郷湯島天神町壹丁目卅八番地

都屋藥房

女子高等師範學校長 細川潤次郎先生序文

華族女學校
女子高等師範校助敎諭
共立女子職業學校講師 寒澤振作君著

家政の栞

全一冊

洋裝大判二百頁正價金二十錢郵税金六錢

本書は尤も多數なる中等社會の婦人を標準として平易に家政上の事柄を述べたるものにて其目次は總論に於て主婦の務めの貴重なる所以を論じ二章以下時間の儉約、物品の整頓、品物の時價、貯蓄、經費、手藝、物品の保存、雇人の待遇、室内の取締、家屋の構造、廢物利用等全篇十二章に分ち詳密に辨せし者なり良妻淑女一閲して家政上の智識を得られんことを

賣捌所 東京神田區表神保町六番地 女學雜誌社書店

文學界

第十五號 三月三十日發兌

○薄命記 禿木
○機聲燈影圖 寧齋
○流水日記 孤蝶
○夏山遊 柳村
○魂祭 藤村
○吏登發句集

其他時文○斷橋○伽羅綺姿○小說有馬筆○柴車○新刊○鳳影

定價一冊六錢○六冊卅三錢○十二冊六十六錢○市外郵税共一冊六錢五厘○六册三十六
郵○十二册六十六錢

發賣所 神田表神保町六番地 女學雜誌社書店

評論

三月二十五日發兌

第二十三號目次

●春遊　隱花生
●宗敎上の東方問題
●鐵血翁と老西鄕
●頭條約改正論
●感激献身
●客氣、義俠、平凡大王
●社會學史上スペンサーの地位　市川靜淵
評論の評(北陸新報、扶桑新聞)
●岐阜縣治水策　齋藤音作
○舊藩林制○藩林制度○民林制度○山役人○山林保護○廢藩后の山林荒敗○諸工業の隆盛○田畑宅地係に爐烟の増加○禿山増加○生計の困窮　郡内與木
の乏
●大勢一觀
議院大人
大勢は濶步直行す
●破れ家のつゞくり話を讀む　玉堂
●深見笠を讀む　醉松子
●濠州クインスランド　山下好民報
●文學斷片を讀む　撫象子
●伊太利の現狀　末摘花
●聯立内閣未可成論
●内大臣德大寺卿を懷ふ　王臣泉
●花を待つのおもひ　稚翁

女學雜誌定價表

冊數	定價前金	市外定價郵稅共
一冊	金六錢	金六錢五厘
十冊	金五十八錢	金六十三錢
廿六冊(半ヶ年分)	金一圓四十三錢	金一圓五十六錢
五十二冊(一ヶ年分)	金二圓六十錢	金二圓八十六錢

一本誌購讀者は代價郵稅共凡て前金御拂込之事前金御拂込無之御注文有之候共一切送附不仕候

一本誌代價郵稅共郵便小爲替にて拂渡局を必らす

一ッ橋郵便爲替取扱所へ宛御振込の事。

請取人は神田表神保町六番地女學雜誌社と御記入の事。郵便切手代用は一割増(五厘切手に限る)にて申受け候。

一本誌御注文の節は住所姓名を明瞭に記載し號數は何號より何冊分と詳細に御書添への事。

東京市神田區表神保町六番地

發賣所　女學雜誌社書店

明治廿六年四月廿五日内務省許可
明治廿七年三月三十日印刷
明治廿七年三月卅一日發行

東京市麴町區下六番町六番地
發行兼編輯者　巖本善治
牛込區市谷加賀町一丁目廿三番地
印刷者　根岸高光
東京北豐島郡王子村下十條八百五十一番地
發行所　女學雜誌社
牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工塲
(電話十九番)